

## **1.研修プログラムの名称**

眼科研修プログラム

## **2.研修概要（理念・特徴）**

当科はいわゆる common disease から難治性疾患まで、全ての眼疾患に対応できる診療体制をとっており、全国でも有数の外来受診患者数を誇っています。また、角膜疾患・ドライアイ、網膜硝子体疾患、黄斑疾患、ぶどう膜炎、緑内障、眼腫瘍、斜視弱視、神経眼科、コンタクトレンズ、ロービジョンケア、電気生理、涙器・涙道疾患、色覚異常に対する専門外来を設けており、特にぶどう膜炎や眼腫瘍の診療実績は国内でもトップクラスです。さらに、手術件数は年間約 3,000 件にのぼり、白内障手術のほか、網膜硝子体疾患に対する手術、緑内障手術、眼腫瘍手術などを数多く行っております。

これらの診療実績に沿って経験豊富なスタッフが指導に当たります。

## **3.到達目標**

眼科医としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）を磨くと同時に、一般外来や病棟での診療、ならびに初期救急対応や地域医療を行うのに必要な資質・能力を体得することを目標とします。

### 1) 医療面接

1. 病歴を聴取し、診療録に記載できる

### 2) 身体診察

1. 眼や眼周囲組織の視診や触診ができる

### 3) 臨床推論

1. 病歴情報と身体所見に基づき検査や治療を決定することができる

2. 検査や治療の実施に当たりインフォームドコンセントをする手順を身に着ける

### 4) 基本的臨床手技

1. 採血法（静脈血）、注射法（皮下、筋肉、点滴、静脈確保）ができる

2. 圧迫止血や局所麻酔、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置ができる

### 5) 地域包括ケア・社会的視点

1. 患者個人への対応ができる

2. 社会的な枠組みでの治療や予防ができる

### 6) 経験すべき症候

1. 視力障害

2. 適宜、ショック、発疹、黄疸、発熱、物忘れ、頭痛、めまい、胸痛、心停止、呼吸困難、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害

### 7) 経験すべき疾患・病態

適宜、脳血管障害、認知症、心不全、高血圧、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症

## **4.指導体制・方略**

指導医とミットを組み病棟、外来、救急外来で診療にあたり、指導を受ける。

## **5.週間予定表**

	月	火	水	木	金	土
午	病棟診療	病棟診療	病棟診療	教授回診	外来診療	病棟診療

前	手術介助	手術介助	手術介助			手術介助
午後	外来診療 クルズス	病棟診療 手術介助	外来診療 クルズス 英文論文抄読会 症例検討会セミナー（適宜） 学会発表予行演習	病棟診療 手術介助	病棟診療 ウエットラボ	

研修医向けクルズス、セミナー

- 1) 屈折検査、視力検査、細隙灯顕微鏡検査
  - 2) 網膜硝子体疾患
  - 3) ぶどう膜炎
  - 4) 前眼部疾患
  - 5) 緑内障
  - 6) 斜視、弱視、神経眼科疾患
  - 7) 眼窩疾患、眼腫瘍
  - 8) コンタクトレンズ
- ウエットラボ
- 9) 動物眼を用いた手術用顕微鏡による手術手技の実践的教育（特に白内障手術）

## 6.カンファレンス

.

## 7.研修活動

症例の社会的背景によっては、社会復帰支援、認知ケア、退院支援、児童・思春期精神科領域の研修活動に参加し、チーム医療の一員として関与します。また、当科は眼腫瘍の症例数が豊富であり、場合によっては臨床病理検討会（CPC）での発表の機会があります。

## 8.評価

- 1) 研修医自己評価
  - 患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する
  - PG-EPOC を用いて自己評価を行う
  - 研修事後レポートを用いて自己評価を行う
- 2) 指導医による評価
  - PG-EPOC を用いて評価する
  - 研修事後レポートより評価する
- 3) コメディカルによる評価
  - PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する
  - 他者評価表を用いて評価する
- 4) 研修医による評価
  - PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

## 9.その他特記事項

当眼科は特にぶどう膜炎、眼腫瘍の症例数が豊富であることから、難治性ベーチェット病に対する抗サイトカイン療法や眼腫瘍手術、眼形成手術を多数行っており、これらの症例も経験できることは他の施設にはない特

色です。また、当眼科主催の企画を含め、都内で隨時開催されているセミナーや研究会、講演会には可能な限り参加し、知見を広めてもらいます。

## **10.研修中に作成する病歴要約**

(**赤太字**必ず作成する、**太字**可能なかぎり作成する、他対象疾患を診察したら作成する)

### **経験すべき症候**

ショック、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、**視力障害**、胸痛、心停止、呼吸困難  
下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛  
運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害

### **経験すべき疾病・病態**

脳血管障害、認知症、心不全、高血圧、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症  
うつ病、統合失調症、依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)